

大学における ICT を活用した英語学習の効果

瀧 口 晴 美

1. はじめに

今日、大学の英語教育現場において、学生の英語力の向上と定着を図るなか、授業外の学習時間をどのように確保し、学生に主体的な学びを促せば良いのかが課題となっている。酒井(2008)は、現状の日本では教室以外での英語の使用が限られているため、指導の効果が上がらず、学生の英語力が低下していることを指摘している。学生の多くは、動機づけの欠如や不明確な目的意識などを理由として授業外に自主的な学習時間を確保できず、英語力を十分に伸ばすことができないでいる。

しかしながら、日本政府はこれまで日本人の英語力を向上させるために、「英語が使える日本人の育成のための戦略構想」(文部科学省 2002)や「英語が使える日本人の育成のための行動計画」(文部科学省 2003)などのさまざまな英語教育政策を打ち出してきた。ただし、これらの政策が効果を上げてきたとは言えず、それを示すデータはない。小野(2008)は、日本人学生の英語力の低下を指摘し、多くの大学で英検3～4級程度の学習内容が指導されている現状を述べている。牧野・平野(2014)は、英語リメディアル教育に携わる多くの大学教員が中学校や高校の文法や語彙のやり直しを中心に指導していると報告している。

英語力低下の要因のひとつは大学生の学習時間の不足である。国立教育政策研究所が実施した調査によると、自主的な学修の時間が週に5時間以下(1日1時間以下)である学生が全体の7割程度に及ぶということが明らかになった(2016)。しかしながら、大学設置基準の第二十一条第二項において、各授業科目の単位数を定めるに当たり、1単位を取得するためには授業外時間も含めて、

45時間の学修時間が必要であることが標準とされている(大学設置基準)。各大学の単位認定方針および、授業形態において実際の学修時間に差が生じることがあるとはいえ、単位制度は授業と授業外の学修で構成されることが前提となっている。したがって、大学設置基準において、授業外での学修時間が必要とされているにもかかわらず、それが保たれていないのが現状である。

学生のスマートフォンの利用時間は年々増加傾向にある(総務省 2017)。このことが学生の学習時間の不足の要因のひとつとして考えられるが、最近では学生が情報機器端末の操作に習熟している状況を肯定的に捉え、ICT教材を活用した英語学習に注目が集まっており、その学習効果を検証した研究事例が多数報告されている。具体的には、英語力を高めたいという強い意思が備わっている学生は学習の形態によらず学力が伸びる傾向が高く、ICTを活用した英語学習でさらに英語力の伸びを促すことができるということが、太田(2012)や井上(2014)、穂屋下ほか(2015)らの事例によって明らかにされている。

一方、森(2008)は、英語の基礎学力が低い学生が自主的にICT機器を活用した学習を継続することは難しく、学習の記録を授業評価に加えるなどの方法を工夫しなければ、自主学習教材として授業で活用することは極めて難しいと述べている。また、太田(2012)は、いかに優れた学習プログラムを用意しても道具を与えるだけでは学生の学力向上へはつながらないとし、学生が明確な目的意識を持っていなければ、途中で孤独に陥り学習の継続が困難になってしまうことを指摘している。酒井(2008)も、英語力が低い学生にはレベルに

応じて英語を学ぶ基礎体力を身につけさせることが必要であり、教員が学習者をサポートしながら自律的学習の素地を養成することの重要性を主張している。学生の明確な目的意識と学習習慣の確立がICTを活用した英語学習においては肝要であり、教員による細やかな学習支援の成否が学生の学習成果に影響をもたらすのである。

そこで本稿では、オンライン教育支援システムで用意したICT教材を活用し、それが学生の課外学習時間の増加と英語力の向上にどのような影響があるのかを検証する。また、先行研究ですでに述べられている通り、ICTを活用した学習においては教員による学習支援が果たす役割が大きいことから、筆者が取り組んでいるリスニング・ワークシートの添削指導（詳細は後述する）が英語力の向上とICT教材への取組にどのような影響を及ぼすのかを探る。本稿では、その取組について紹介し、有効な学習支援となる手がかりを探る。本稿の構成は次のとおりである。まず第2節で、検証の対象である英語の授業概要を示す。次に第3節で、履修学生を対象に英語学習にかんして実施したアンケート調査の結果をもとに、彼らがICTを活用した英語学習にどのような意識を持ちながら取り組んでいたのかを分析する。さらに、第4節では、ICT教材の取組頻度が学期末試験結果にどのように結びついていたのか、リスニング・ワークシートの個別指導（教員による学習支援）が学習成果にどのように影響していたのかを考察する。最後に、本稿のまとめと今後と課題について検討する。

2. 授業実践の概要

2017年度春学期に東洋大学法学部1年生が履修した必修科目「英語 I AA」（履修者は35名）を調査対象とした。本授業の目的は、TOEIC形式の問題に取り組みながら豊富な語彙やコロケーションを習得すること、そして英語の発音や聞き取りのポイントの理解を通して聴解力をつけ、基礎的な文法事項や構文の理解を通して読解力を身につけることである。授業への取組（10%）、ICT教材の

取組（10%）、授業内で行う小テスト（30%）、学期末試験（50%）の総合結果に基づき東洋大学の成績評価の基準に従って成績評価を行った。

2-1. 授業外学習

学生の自主学習を促進し、授業外での学習時間の増加を目指すため、東洋大学法学部が出版社の許諾を得て、Learning Management System「ToyoNet-ACE」（朝日ネット manaba）上に用意した授業外学習用教材を利用した。指定教科書には『FIRST TIME TRAINER FOR THE TOEIC® TEST<Revised Edition>』（妻鳥ほか 2016）を使用した。ToyoNet-ACEの問題は教科書と同じ内容となっており、学生はインターネットに接続した情報機器（スマートフォンやタブレット端末、パーソナル・コンピュータ等）からいつでも語彙問題、リスニング問題、リーディング問題に取り組むことができる。本授業では、学生にToyoNet-ACEを活用した授業外での事前・事後学習を課し、各自の取組頻度を成績評価の一環とした。第1週目は本授業のガイダンスを行い、第2週目以降は以下の通り、授業を進めた（図1）。

2-1-1. 授業前の予習（Listening Sectionのドリルと小テスト）

Listening Section(Part1~4)を授業で学ぶ前の課題として、ToyoNet-ACE上にドリルと小テストを用意した。ドリルは語彙力を強化するためのエクササイズであり、学生は予習テストに取り組む前に、語彙のドリルに解答しなければならない。ドリルには合格条件が設定されており、学生はその合格点に達することができなければ予習の小テストに進むことができない。そのため、合格条件を満たすまで、繰り返し語彙のドリルに取り組まなければならない。また、ドリルは授業日の1週間前よりアクセス可能となり、授業の直前まで何度も取り組むことができる。

ドリルの合格条件を満たした学生は、予習小テストに取り組む。予習小テストの内容は、教科書と同じ問題であるため、授業前の予習が効率的にできる仕組みになっている。また、予習小テストは所定の期間（授業日の3日前から授業開始時間

前まで)に取り組まなければならないため、学生は学習スケジュールを自己管理する必要がある。この期間を過ぎてしまった場合は、予習小テストにアクセスすることができず、課題が未提出になってしまう。

予習小テストに解答した学生は、次に、教科書に付属の音声資料またはToyoNet-ACEから入手できる音声教材を使用して、リスニング・ワークシート(教科書のPart1からPart4を題材に作成された穴埋め問題)の聞き取り問題に取り組む(図2)。ToyoNet-ACE上で入手可能な音声は、再生速度が3段階(通常・やや遅い・遅い)あり、特にリスニングの苦手な学生は自分に合った速度でリスニング・ワークシートに取り組むことができる。また、リスニング・ワークシートに出てきたわか

らない語彙や熟語を授業前までに調べておくことも予習の課題である。

2-1-2. 授業前の予習 (Reading Sectionのドリルと小テスト)

Reading Section (Part5~7)の授業前課題であるドリルと小テストもToyoNet-ACEに用意した。ドリルは語彙力をつけるためのエクササイズが中心で文法に関連する問題も5問ほどある。ドリルの合格点に達した学生は、予習小テストに所定の期間(授業日の3日前から授業直前まで)に取り組む。予習小テストに解答した学生は、授業範囲に出てきた語彙や文法事項を確認し、英文の和訳を行う。

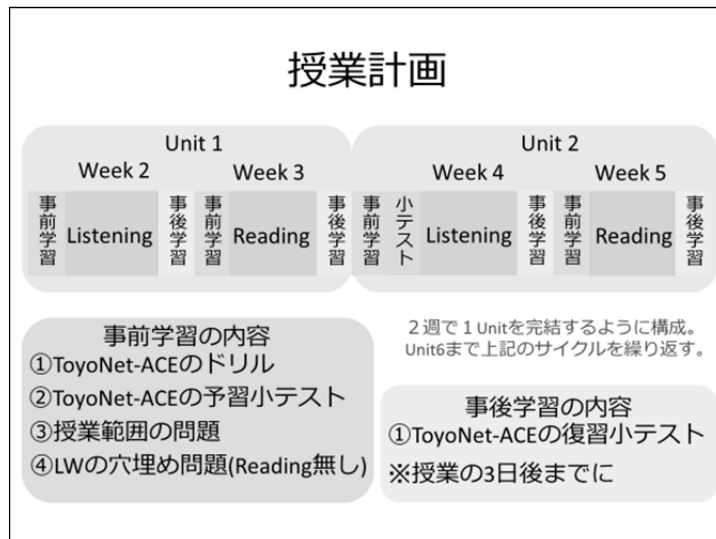


図1 2017年度春学期の授業計画の例

Part 1

(A) She's taking her (1) _____.

(B) She's (2) _____ (3) _____ (4) _____.

(C) She's (5) _____ (6) _____ (7) _____ (8) _____.

(D) She's (9) _____ the store.

図2 リスニング・ワークシートの問題例

2-2. 授業後の復習 (Listening Sectionおよび Reading Sectionの小テスト)

学生は、授業で学習した内容の定着を図るために予習小テストと同じ内容の小テストを復習小テストとしてToyoNet-ACEにて取り組む。復習小テストにも取組期間を設けており、学生は授業直後から3日後までの期間のみ、解答、提出することができる。

2-3. 授業内容

授業では、教員による解法ポイントの解説だけでなく、グループワーク（場合によってはペアワーク）も取り入れ、クラスメイトとの議論を通して、予習で取り組んできた課題の解答および解法の要点について理解を深める授業を行った。また、各単元の終了後には授業の冒頭で記述式の小テストを行い、学習内容の定着を図った。90分授業の流れは以下の通りである（表1）。

2-3-1. Listening Sectionの授業内容

導入（約20分）では、学習内容の定着と理解の確認をするために記述式の小テストを行い、直接的な得点アップにつながるTOEICのリスニング問題の解法ポイントを説明した。また、教科書の各Unitの重要語彙も例文などを提示しながら、活用法を習得できるよう指導した。次のグループワーク（約15分）では、学生が3～4人のグループになり、予習で取り組んだ教科書の問題の解答について議論し、答え合わせを行った。解答が異なる場合は、グループ全員が納得するまで、議論することになっている。その後、同じグループでリスニング・ワークシートの語句の答え合わせを行い、最後に各グループの代表者が割り当てられた解答の板書をした。続いて、教員が解説（約45分）を

行い、学生が板書した解答について、聞き取りのポイントや文法事項を踏まえながら、答え合わせをした。その際、多くの学生が聞き取れなかったり聞き間違えてしまう語彙が出た場合は、音と音のつながりを意識した上で繰り返し音声を聞いたり、発音の練習を行った。最後のまとめ（約10分）では、学習した要点の整理や次回までの課題や授業範囲の確認、リスニング・ワークシートの回収などを行った。また、授業にかんする質問や英語学習全般にかんする相談を受けるなど個別に対応する時間にも充てた。

2-3-2. Reading Sectionの授業内容

基本的な授業構成は、Listening Sectionと同じである（表1）。導入（20分）では、前回のリスニング・ワークシートを返却し、聞き間違えやスペルミスが多かった語彙や文章を取り上げ、再度解説し、復習を行った。また、TOEICのリーディング問題の得点をアップさせるために必要な解き方のアドバイスも行った。そのほか、授業範囲となっている教科書の単元に応じて、文法事項の解説や確認も取り入れた。次にグループワーク（約15分）では、グループの代表者が割り当てられた解答と和訳を板書した。続いて教員が解説（約45分）を行い、学生が板書した解答について、主にPart5（短文穴埋め問題）とPart6（長文穴埋め問題）に重点を置き、基礎的な文法事項の理解を深めさせながら、答え合わせを行った。また、読解問題を解く上で必要な速読のスキルと正確さを高めるために、品詞のはたらきや文型なども確認した。最後のまとめ（10分）では、次週までの課題や授業範囲、小テストの確認を行った。また、個別の質問受付のほか留学に興味がある学生から

表1 授業内容の流れ

時間	活動	内容
20分	導入	小テストの実施やTOEICテストの解法ポイントを解説
15分	グループワーク	3～4人のグループで議論、代表者が解答を板書
45分	教員による解説	板書された解答の解説
10分	まとめ	要点の整理、および次週までの課題範囲を確認

の個別相談なども受けた。

3. ICT教材を活用した英語学習にかんするアンケート調査の結果

3-1. 目的

授業外学習の課題にICT教材を活用することが非英語専攻の学生の学習行動にもたらす効果を調べるために、彼らの英語学習に対する考えや動機、ICT教材の取組、リスニング・ワークシートの取組について、アンケート調査を実施した。このアンケートの結果に基づき、非英語専攻の学生の英語学習に対する学習意欲を明らかにし、ICTの活用がそのような学生の自主学習を促進し効果的な学習効果をもたらす要因となっているのか、教員による個別の学習支援には学生の学習効果を高める効果があるのかについて検証を行った。

3-2. 調査協力者

2017年度春学期「英語 I AA」の履修生を対象としてアンケート調査を実施した。回答者は32名だった。

3-3. アンケート調査概要

本アンケート調査は、18項目で構成した。回答方法は17項目で5段階評価を用い、1項目で自由記述を用いた。Q1からQ5までの5項目は英語学習に対する考えや動機を問う質問となる。Q6からQ12までの7項目はICT教材を使った英語学習に対する考えを問う質問となる。Q13からQ17までの

5項目はリスニング・ワークシートを使った学習（授業時のグループワークを含む）を問う質問となる。Q18の1項目は英語学習についての自由記述となる（付録 I を参照）。

学生には、アンケート調査の回答が成績に一切影響しないこと、そして調査結果の内容から個人が特定されないようにすることを明確にした上で、調査協力を求めた。記名方式で調査を実施した結果、32名から調査協力の了承とともにアンケート調査の回答が得られた。

3-4. アンケート調査結果

5段階評価における選択肢を若い番号から順番に5点、4点、3点、2点、1点というように得点化した。例えば、Q1であれば「1. 好き」を5点、「2. 少し好き」を4点、「どちらでもない」を3点、「4. 少し嫌い」を2点、「5. 嫌い」を1点とした。得点化した数値をもとに各質問項目の回答分布と平均、標準偏差を求め、学習行動の傾向を分析した。

3-4-1. 英語学習に対する考え・動機

学生の英語学習に対する考えや動機の結果は、表2の通りである。Q1「英語を勉強することが好きですか?」という質問に対しては、平均値が3.19という結果だったため、このクラスの学生は英語を好き好んで勉強しているわけではないが、英語に嫌悪感を抱いていないことがわかる。ただ、Q2「英語力を伸ばしたいと思いますか?」、Q3

表2 英語学習に対する考え・動機

質問項目	Mean	SD
Q1. 英語を勉強することは好きですか?	3.19	1.16
Q2. 英語力を伸ばしたいと思いますか?	4.28	1.21
Q3. 将来、社会人になったときに英語は重要だと思えますか?	4.31	1.10
Q4. 英語力を伸ばすためには努力が必要だと思えますか?	4.59	1.03

「将来、社会人になったときに英語は重要だと思いますか？」という質問に対しては、平均値がQ2では4.28、Q3では4.31とそれぞれ高い数値を示している。英語の重要性を認識していることから学生は将来の実務性を動機として取り組んでいることがわかる。そして、Q4の「英語力を伸ばすためには努力が必要だと思いますか？」という質問に対しては、平均値が4.59と高い数値となっている。Q5にて、TOEICの目標スコアを尋ねると、「600点以上」と回答した者が17名と最も多く、

次いで「500点以上」と回答した者が9名おり、さらに「700点以上」を目標にしている学生も2名いる(図3)。授業シラバスの到達目標において、このクラスの学生に求められているTOEICの目標スコアは400点以上であることから、多くの学生が目標スコアを高く設定していることがわかる。

3-4-2. ICT教材を使った英語学習について

次に、ToyoNet-ACEを活用した英語学習にどのような意識を持ちながら取り組んでいたのかを見ていく。Q6にて、「ToyoNet-ACEのドリルと小テ

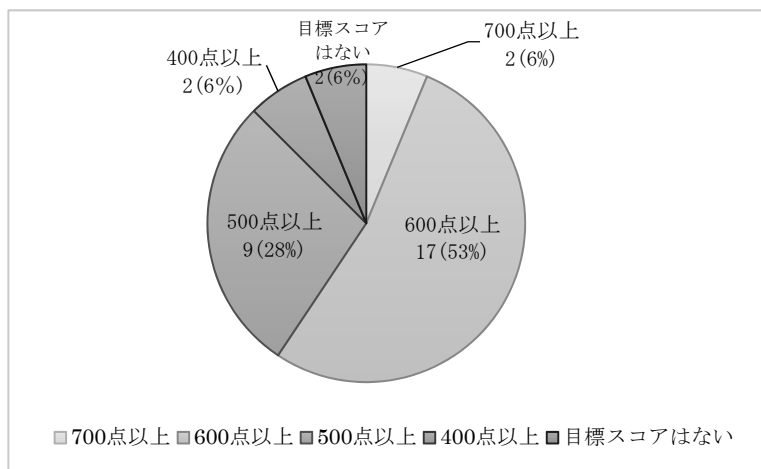


図3 「Q5. TOEICの目標スコア」の回答

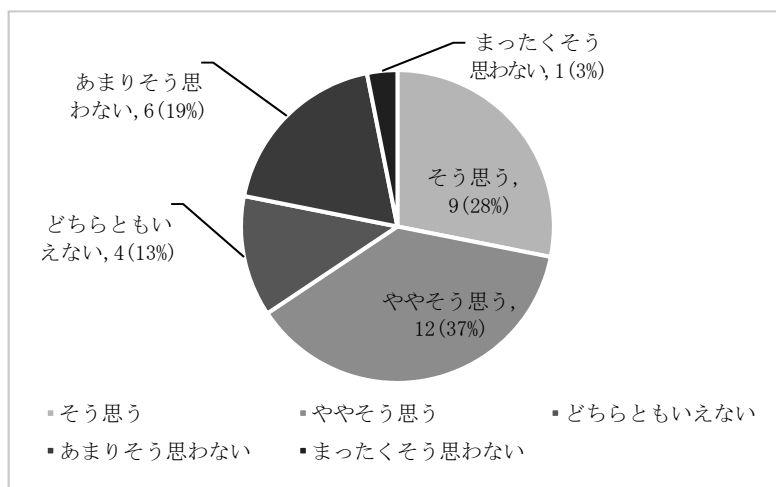


図4 「Q6. ToyoNet-ACEのドリルと小テストは使いやすいと思いましたか？」の回答

大学における ICT を活用した英語学習の効果

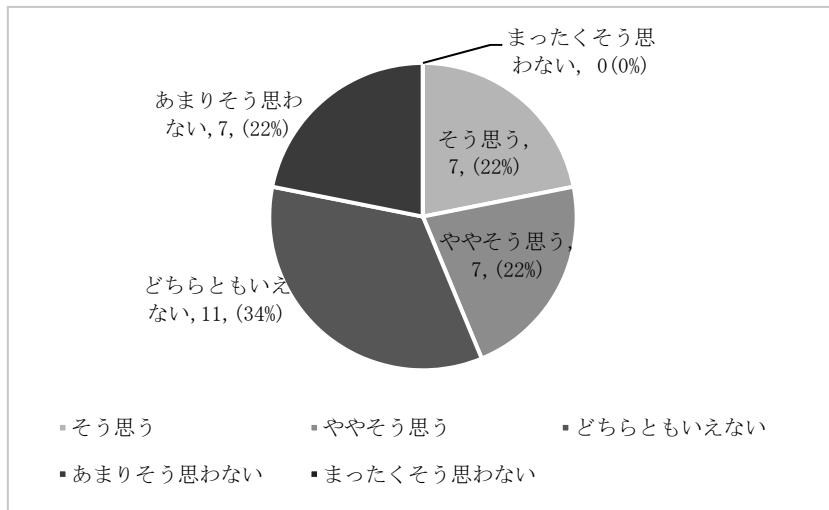


図5 「Q7. ToyoNet-ACE に取り組むスケジュール管理はできたと感じますか?」の回答

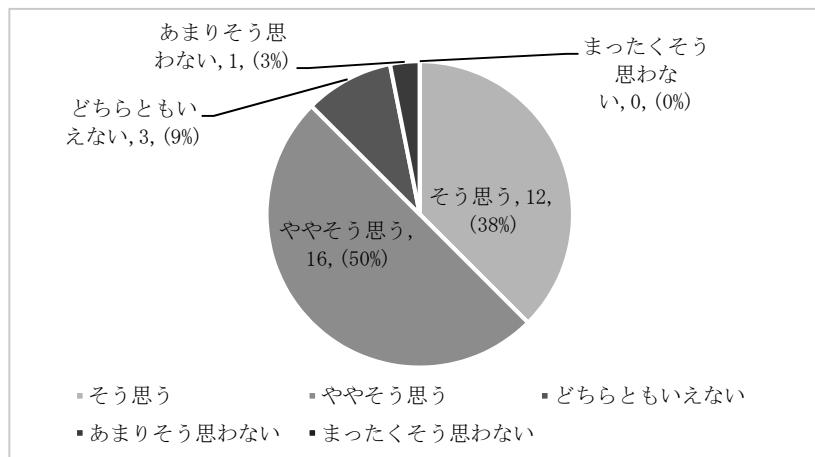


図6 「Q8. ToyoNet-ACE を利用した予習・復習には学習効果があったと感じますか?」の回答

ストは使いやすいと感じましたか?」と質問したところ、「そう思う」が9名、「ややそう思う」が12名おり、学生はICT教材を肯定的に捉えていることがわかる(図4)。Q7では、「ToyoNet-ACEに取り組むスケジュール管理はできたと感じますか?」と質問したところ、「そう思う」が7名、「ややそう思う」が7名、「どちらともいえない」が11名、「あまりそう思わない」が7名であることから、計画的な学習習慣が身についたと感じている学生が多いと言えない(図5)。

Q8の「ToyoNet-ACEを利用した予習・復習には学習効果があったと感じますか?」という質問には、「そう思う」が12名、「ややそう思う」が16名おり、ToyoNet-ACEの取組によって学生自身が学習効果を実感していたことがわかる(図6)。Q9にて「ToyoNet-ACEに取り組むことで教室外での学習習慣が身についたと感じますか?」と尋ねたところ、「そう思う」が6名、「ややそう思う」14名おり、ToyoNet-ACEを事前事後学習の課題とすることで、授業外での学習時間を確保させること

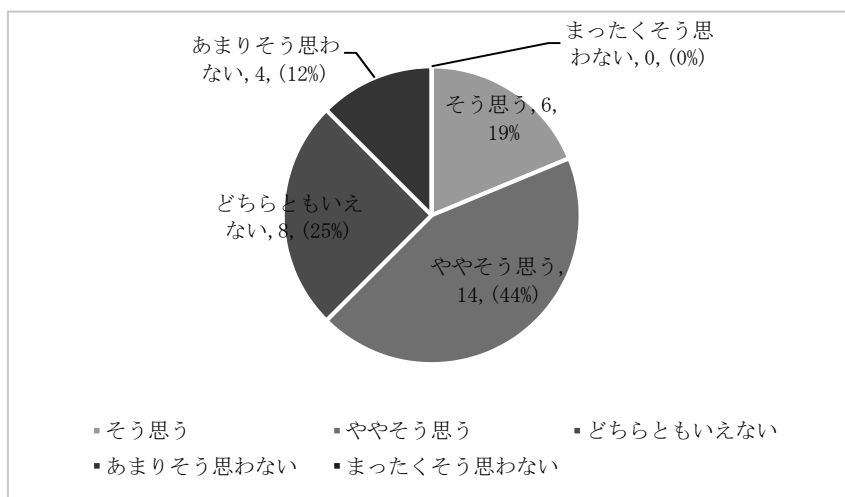


図7 「Q9. ToyoNet-ACE に取り組むことで教室外での学習習慣が身についたと思いますか？」

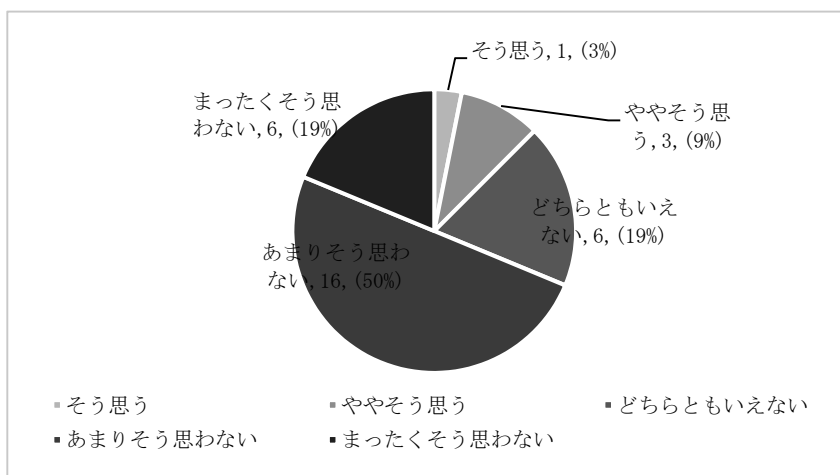


図8 「Q10. ToyoNet-ACE のドリル, 予習・復習小テストの他にも課題があった方が良いと思いますか？」

ができたと言える (図7)。

ただし, Q10にて「ToyoNet-ACEのドリル, 予習・復習小テストの他にも課題があった方が良いと思いますか?」と尋ねたところ, 「まったくそう思わない」が6名, 「あまりそう思わない」が16名いたため, 全体の7割の学生が自主的に課題を見つけて英語力を上げようということに対しては消極的であることがわかる。(図8)

Q11にて, ToyoNet-ACEに取り組んだ動機について尋ねると「成績評価の一環であるから」と27名

が回答し(全体の84%), 「習慣になっているから」は4名, 「英語力を伸ばしたいから」と回答した学生は1名だった(図9)。多くの学生が成績評価を動機づけとして, ToyoNet-ACEに取り組んでいたことがわかる。Q12の「ToyoNet-ACEに取り組まなかった動機」については, 15名の学生は「すべて提出したので該当しない」と回答し, 「忘れることが多いから」と回答した学生は14名, 無回答が3名だった。「使いにくいから」, 「面倒だから」, 「大切だと思っていないから」と回答した学生は

大学における ICT を活用した英語学習の効果

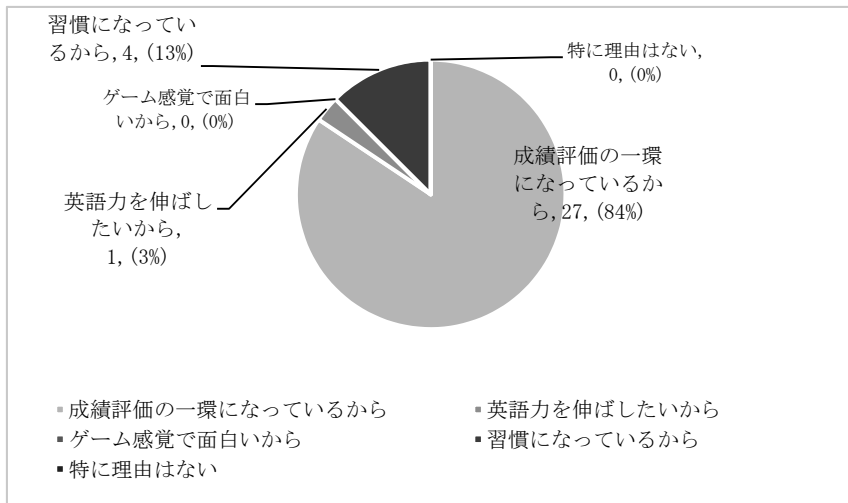


図9 「Q11. ToyoNet-ACEに取り組んだ動機」の回答

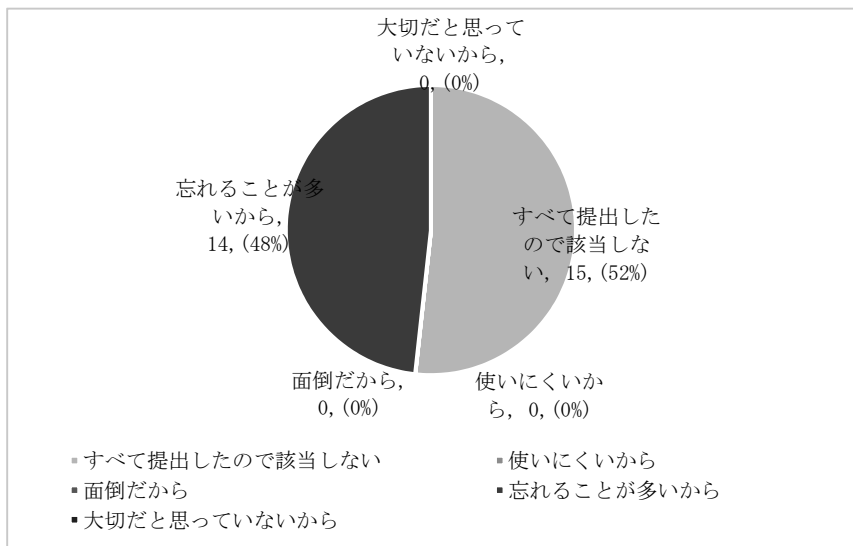


図10 「Q12. ToyoNet-ACEに取り組まなかった動機」の回答

いなかった。(図10)。

3-4-3. リスニング・ワークシートを使った学習について

学生は、リスニング・ワークシートを合計6枚 (Unit 1～6) 提出することが課題であった。授業内では、リスニング・ワークシートの予習をもとに、3～4人のグループに分けて、グループワークを行い、クラスメイトとの議論を通して、理解を深めることに重点を置いた。また、授業後に

教員がリスニング・ワークシートを回収し、1枚ずつ補足事項や叱咤激励のコメントを書き入れ、学生に返却を行った。ここでは、リスニング・ワークシートを使った学習についてのアンケート結果を見ていく。

Q13ではリスニング・ワークシートの提出状況について尋ねた。32名中24名が「すべて提出した」と回答し、「1回だけ提出できなかった」と回答した学生は4名いた。リスニング・ワークシート

の提出が成績評価の一環となっていたことと事前にリスニング・ワークシートに取り組みなければ授業内でのグループワークに貢献できないことがリスニング・ワークシートの提出率の高さに結びついたと言える。Q14にて「リスニング・ワークシートに取り組んだ平均時間」について尋ねたところ、4名が「1時間～2時間」、22名が「30分～1時間」、6名が「30分以内」と回答した。Q15で「提出後に返却されたリスニング・ワークシートの見直しや復習をしましたか?」と尋ねたところ、「必ずした」と回答した学生は9名、「半分ほどしなかった」と回答した学生は14名、「1回もしなかった」と回答した学生は5名だった。Q16にて「授業内のグループワークはリスニング・ワークシートの理解を深めるのに効果的だと思いますか?」と尋ねたところ、「そう思う」が14名、「ややそう思う」が12名と回答した。グループワークは授業内容の理解を深めるために有効だったと言える。Q17にて、「リスニング・ワークシートに書かれた教員のコメントは英語学習の動機づけの向上につながりましたか?」と尋ねたところ、19名が「つながっている」、10名が「ややつながっている」と回答した。学生の取組みを的確に評価し、コメントを添えることで学生も教員に見られていると意識することができ、学生の自覚を促すことができたと言える。

4. 考察

第3節では、学生の英語学習に対する考えや動機、ICT教材を活用した英語学習、そしてリスニング・ワークシートの取組について彼らがどのように感じていたのかを明らかにした。本節では、学生のICT教材の取組頻度が学期末試験結果にどのように結びついていたのかを考察する。また、リスニング・ワークシートの個別指導(教員による学習支援)が学生の学習成果にもたらした影響についても検証する。

4-1. ToyoNet-ACEの取組頻度(全24回)と学期末試験結果の相関

ToyoNet-ACEの取組頻度と学期末試験の相関を

見ていく。学期末試験は100点満点で、対象クラスの最高点は84点、全体の平均点は67.78点だった。表3の通り、学生のToyoNet-ACEの取組頻度が高いと学期末試験の平均点も高いことがわかる。ToyoNet-ACEの事前事後学習(予習・復習小テスト)は、全部で24回あった。事前事後学習に24回から20回取り組んだ学生は27名おり、彼らの学期末試験の平均点は71.03点だった。取組頻度が19回から16回の学生は2名おり平均点は54.00点、15回から11回取り組んだ学生は3名おり平均点は47.66点だった。取組頻度が10回以下の学生は0名だった。取組頻度と学期末試験結果の相関係数は0.66であり、一定の相関が見られると考えられる。したがって、この結果からはToyoNet-ACEの取組頻度が高ければ高いほど、学期末試験の結果が高く、ICT教材を活用した学習には英語力を向上させる効果があると言える。

表3

取組頻度	人数	学期末試験 Mean	SD
24回～20回	27人	71.03	8.05
19回～16回	2人	54.00	7.00
15回～11回	3人	47.66	4.02
相関係数			0.66

先述のアンケート調査の結果では、ToyoNet-ACEのドリルと小テストは「使いやすい」と回答していた学生は21名(そう思う9名、ややそう思う12名)いた。とりわけ24回～20回の取組頻度が高い学生27名のうち、19名の学生が「使いやすい」と回答していたため、教材の使いやすさが事前事後学習の取組を促進し、それが学習効果につながったと言える。また、24回～20回の取組頻度が高い学生27名の学生のうち、24名の学生がToyoNet-ACEに取り組むことに学習効果を実感していた。本授業の履修生の88%がTOEICの目標スコアを500点以上と設定していたことのほかにも、ToyoNet-ACEでの事前事後学習は成績評価の一環とされていたため、それがToyoNet-ACEの取組頻度の高さに結びつき、学期末試験の結果にも影響をおよぼ

したと言える。

ただし、アンケート調査の結果では、ToyoNet-ACEに取り組んだ動機は「成績評価の一環であるから」と84%の学生が回答していた。さらに、ToyoNet-ACEのドリル、予習・復習小テスト以外の課題の必要性については、6名が「まったくそう思わない」、16名が「あまりそう思わない」と回答し、このような否定的な回答は全体の66%に上った。したがって、学生はたとえTOEICの目標スコアを高く設定し英語の習得には努力が必要だと認識していたとしても、実際には指定された課題をこなすことのみを十分とし、成績評価などの短期的な目標を中心に捉えている現状があると言える。

4-3. 教員による学習支援の効果（リスニング・ワークシートの添削指導を通して）

次に、教員による学習支援の効果について検証する。ICT教材を活用した学習の問題点のひとつとして、学生が孤独に陥りやすく、それが継続的な学習の妨げになることが挙げられる。本授業の履修者数は35名であり、決して少人数制クラスとは言えない。さらに、週1コマの90分授業だけでは教員が一人ひとりの学生と向き合う時間が限られているため、学生が孤独を感じないよう教員が学生との関わり合いの中で何らかの工夫をする必要があった。そこで、筆者はリスニング・ワークシートの添削指導を通して、細やかな学習支援を個別に行うことを試みた。具体的には、提出されたリスニング・ワークシートに目を通し、必ず学生の理解度や学習状況を把握することに努め、個別に適した指導をするよう心がけた。例えば、学生が学習事項の要点を整理し、関連する文法事項や語彙などをまとめ、積極的な授業態度を示した際は、激励のコメントを書き添えた。一方で、リスニング・ワークシートに空欄が目立っていたり、授業中に説明された重要事項がメモされていない場合や補足説明や注意喚起を促すコメントを書き入れた。余白に学習事項や英語学習について質問が記入されていた場合は丁寧に返答を行うなど1対1の関係性を意識した指導を行った。

以下、上記の学習支援が学生の学習効果にどのような影響があったのかを考察する。アンケート調査Q17の「リスニング・ワークシートに書かれた教員のコメントは英語学習の動機づけの向上につながりましたか？」という質問に対して、32名のうち19名が「つながっている」、10名が「ややつながっている」と回答していた。このことから、教員からの学習支援は学生の動機づけの向上に影響があり、学生は教員からの個別指導を肯定的に捉えていることがわかる。Q17の質問に対して、「つながっている」と回答した学生19名のうち12名が期末試験において平均点よりも高い点数を獲得しており、「ややつながっている」と回答した10名のうち5名の得点が平均点よりも高かった。よって、教員からの学習支援を肯定的に捉えている学生は学習意欲を高め、期末試験の結果につなげることができたと言える。

リスニング・ワークシートを用いた個別指導は、教員と学生間の交換ノートのような機能を果たしていたのかもしれない。教員は、リスニング・ワークシートの取組の様子を丁寧に観察することによって学生の学習状況や理解度を把握することができ、学生は教員からの個人指導を励みに学習意欲を高め英語学習を継続することができた。したがって、教員による学習支援が学生の学習効果に与える影響があり、リスニング・ワークシートを用いた細やかな個別指導は学生との距離を縮め、学習支援をする上で有効であると言える。

5. まとめと今後の課題

本稿では、筆者の実践例から、ICT教材の活用が学生の課外学習時間の増加と英語力の向上におよぼす影響と教員による学習支援が果たす役割について考察した。前節で報告した通り、学生のICT教材の取組頻度と学期末試験の間には一定の相関が見られたため、ICT教材を活用した学習には英語力を向上させる効果があることがわかった。学生の取組頻度をより高める上で留意したい点は、学生のICT教材の学習に取り組む動機である。調査結果から、学生の多くは語学を習得するために

は継続的な学習が必要であるということと将来社会に出たときに英語は役に立つということを確認していた。ところが、ICT教材に取り組んだ動機は、「成績評価の一環であるから」と84%の学生が回答しており、英語力を伸ばしたいという長期的な目標よりも、成績評価という短期的な目標を重視するという傾向があるということが本調査からわかった。また、調査対象の学生は非英語専攻で、英語学習に対する関心がもともと高いグループではなかった。よって、とりわけ英語学習に対する動機が高くない学生には、ICT教材の取組を成績評価の一環にすることを徹底し、学習環境を整える工夫が必要であることもわかった。

また、先行研究で述べられている通り、ICTを活用した授業においては教員の細やかな学習支援と叱咤激励が学生の自律した学習の継続に深く関わっており、学生を孤立させないことに留意する必要がある。前節で報告した通り、筆者はリスニング・ワークシートの添削指導を通して個別の学生支援を行うことを試みた。アンケート調査の結果からは、90%の学生が教員による添削指導を肯定的に捉えていたことがわかった。週1コマの対面授業のみでは、学生一人ひとりと接触する時間が限られているからこそ、別の方法で学生の学習支援を工夫しなければならない。今回のリスニング・ワークシートの添削指導は学生とコミュニケーションを取る上で信頼関係を築くことができる有用な指導法であることがわかったが、このような添削指導のほかにも効果的な学習支援を検討していく必要がある。

以上を踏まえて、今後の課題として2点あげる。1点目は、週1コマの対面授業の活動内容である。ICT教材の事前事後学習を含むすべての予習・復習を滞りなく済ませた上で授業に出席することが前提となっていたが、学生によっては予習を短時間で簡単に済ませグループワークでの答え合わせや議論を他の学生らに任せてしまうというようなケースも何件も見られた。アンケート調査の結果では、多くの学生がグループワークは授業内容の理解を深める上で有効であると感じていたことが

わかったが、グループ内での学生の貢献に温度差が生じてしまわないよう、今後も学生個々の活動を観察し授業の内容を検討していく必要がある。例えば、ICT教材に取り組みながら自分で調べたり考えたりする課題を事前に取り組みさせるなどして、すべての学生が積極的にグループワークに参加できる授業方法を探りたい。2点目の課題は、学生のICT教材に取り組んだ時間、リスニング・ワークシートに取り組んだ時間、授業内での小テスト(筆記)のために費やした学習時間など授業外での総体的な学習時間についてさらに詳しく調べることである。それらを明らかにすることによって、学生がどのような学習にどのくらいの時間をかけているのかが明らかになり、学生の学習時間の不足を解決する糸口が見つかるかもしれない。また、本稿では筆者が行ったリスニング・ワークシートの添削指導の取組を報告したが、今後は単元ごとに行う小テストにも比重を置き、毎回の小テストのフィードバックを行った上で、その学習支援の効果も検証していきたい。

付記

本稿は、平成29年度教育改革ICT戦略大会(2017年9月)における口頭発表の原稿を修正し加筆したものである。

参考文献

- 井上加寿子(2014)。「eラーニングを活用した英語科目における効果的授業実践の試み」『教育総合研究叢書』第7号、65-73。
- 小野博(2008)。「内外のリメディアル教育におけるICTの活用の現状と展望」『メディア教育研究』第5号、1-10。
- 太田かおり(2012)。「e-learning英語教育の学習効果に関する研究：学習者の自律学習へ向けた教師の役割」『九州国際大学国際関係学論集』第7巻第2号、51-80。
- 国立教育政策研究所(2016)「大学生の学習実態に関する調査研究について(概要)」
http://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/pdf06/gakusei_chousa_gaiyou.pdf

- 酒井志延 (2008). 「英語教育における自律した学習者養成とICT」『メディア教育研究』第5巻第1号, 45-56.
- 総務省 (2017) 「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査<概要>」
http://www.soumu.go.jp/main_content/000492876.pdf
- 妻鳥千鶴子・田平真澄・松井こずえ (2016). 『FIRST TIME TRAINER FOR THE TOEIC® TEST <Revised Edition>』東京：センゲージラーニング株式会社
- 内閣府 (2017) 「青少年のインターネット利用環境実態調査」
http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/net-jittai_list.html
- 穂屋下茂・早瀬博範・Alan Bowman・久家淳子・福崎優子・藤井俊子 (2015). 「佐賀大学の英語教育充実に向けたICTを活用した学習環境整備の研究」『佐賀大学全学教育機構紀要』第3号, 31-42.
- 牧野眞貴・平野順也 (2014). 「英語リメディアル教育の現状を探る：教員の意識調査から見えてくること」『リメディアル教育研究』第9巻第2号, 181-192.
- 森靖之 (2008). 「ICTを利用した教育実践方法について」『高松大学紀要』第50号, 115-128.
- 文部科学省 (2002) 「英語が使える日本人の育成のための戦略構想」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/020/sesaku/020702.htm#plan
- 文部科学省 (2003) 「英語が使える日本人の育成のための行動計画」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryo/04031601/005.pdf
- 文部科学省 (2012) 「大学設置基準」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/053/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2012/10/30/1325943_02_3_1.pdf
- 山内真理 (2008). 「大学英語教育におけるICT活用」『神戸海星女子学院大学研究紀要』第47号, 93-119.

付録 I

英語学習にかんするアンケート

以下の英語学習にかんする質問にご回答ください。本調査は、みなさんが大学の英語学習についてどのような考えや動機を持っているのかについて理解を深めるために行うものです。以下の基準で、あなたの考えに最も近い数字を○で囲んでください。あなたの回答内容が成績評価に影響することは一切ありません。あなたの回答内容に関する守秘義務の履行を約束します。

学籍番号 _____ 氏名 _____

○英語学習に対する考え・動機

Q1. 英語を勉強することは好きですか？ 1. 好き 2. 少し好き 3. どちらでもない 4. 少し嫌い 5. 嫌い
Q2. 英語力を伸ばしたいと思いますか？ 1. そう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない 4. あまりそう思わない 5. まったくそう思わない
Q3. 将来、社会人になったときに英語は重要だと思いますか？ 1. そう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない 4. あまりそう思わない 5. まったくそう思わない
Q4. 英語力を伸ばすためには努力が必要だと思いますか？ 1. そう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない 4. あまりそう思わない 5. まったくそう思わない
Q5. あなたのTOEICの目標スコアを教えてください。 1. 700点以上 2. 600点以上 3. 500点以上 4. 400点以上 5. 目標スコアはない

○ToyoNet-ACEについて

<p>Q6. ToyoNet-ACEのドリルと小テストは使いやすいと思えましたか？</p> <p>1. そう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない 4. あまりそう思わない 5. まったくそう思わない</p>
<p>Q7. ToyoNet-ACEに取り組むスケジュール管理はできたと思いますか？</p> <p>1. そう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない 4. あまりそう思わない 5. まったくそう思わない</p>
<p>Q8. ToyoNet-ACEを使用した予習・復習には学習効果があったと思いますか？</p> <p>1. そう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない 4. あまりそう思わない 5. まったくそう思わない</p>
<p>Q9. ToyoNet-ACEに取り組むことで教室外での学習習慣が身についたと思いますか？</p> <p>1. そう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない 4. あまりそう思わない 5. まったくそう思わない</p>
<p>Q10. ToyoNet-ACEのドリル、予習小テスト、復習小テストの他にも課題があった方が良いと思いますか？</p> <p>1. そう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない 4. あまりそう思わない 5. まったくそう思わない</p>
<p>Q11. ToyoNet-ACEに取り組んだ動機について教えてください。</p> <p>1. 成績評価の一環になっているから 2. 英語力を伸ばしたいから 3. ゲーム感覚で面白いから 4. 習慣になっているから 5. なんとなく（特に理由はない）</p>
<p>Q12. ToyoNet-ACEに取り組まなかった動機について教えてください。</p> <p>1. すべて提出したので該当しない 2. 使いにくいから 3. 面倒だから 4. 忘れることが多いから 5. 大切だと思っていないから</p>

○リスニング・ワークシートについて

<p>Q13. リスニング・ワークシートの提出について教えてください。</p> <p>1. すべて提出した 2. 1回だけ提出できなかった 3. 2～3回提出できなかった 4. 半分ほど提出できなかった 5. 1回も提出できなかった</p>
<p>Q14. リスニング・ワークシートに取り組んだ平均時間について教えてください。</p> <p>1. 2時間以上 2. 2時間～1時間 3. 1時間～30分 4. 30分以内 5. 印刷しただけ</p>
<p>Q15. 提出後に返却されたリスニング・ワークシートを見直したり復習したりしましたか？</p> <p>1. 必ずした 2. 1回だけしなかった 3. 2回しなかった 4. 半分ほどしなかった 5. 1回もしなかった</p>
<p>Q16. 授業内のグループワークはリスニング・ワークシートの理解を高めるのに効果的だと思いますか？</p> <p>1. そう思う 2. ややそう思う 3. どちらともいえない 4. あまりそう思わない 5. まったくそう思わない</p>
<p>Q17. リスニング・ワークシートに書かれた教員のコメントは英語学習に対しての動機づけの向上につながっていますか？</p> <p>1. つながっている 2. ややつながっている 3. どちらともいえない 4. あまりつながっていない 5. まったくつながっていない</p>

○ToyoNet-ACEを使った英語学習について

<p>Q18. ToyoNet-ACEを使用した英語学習について、何か気づいた点や意見等がありましたら、自由に記述してください</p>

ご協力ありがとうございました。